棟梁集

十

4772
8

門へ2
號 4772
冊 8

昭和五年二月廿二日寄
高田早苗

棟梁集

十

友　雅　吉

友　庭新樹

雅　鶯

吉　梅花

[illegible]字大成

秋

七夕

秋

秋

秋

七夕

七夕月

七夕雨

石亭の雨上りの夜ガ(一字)(一字)

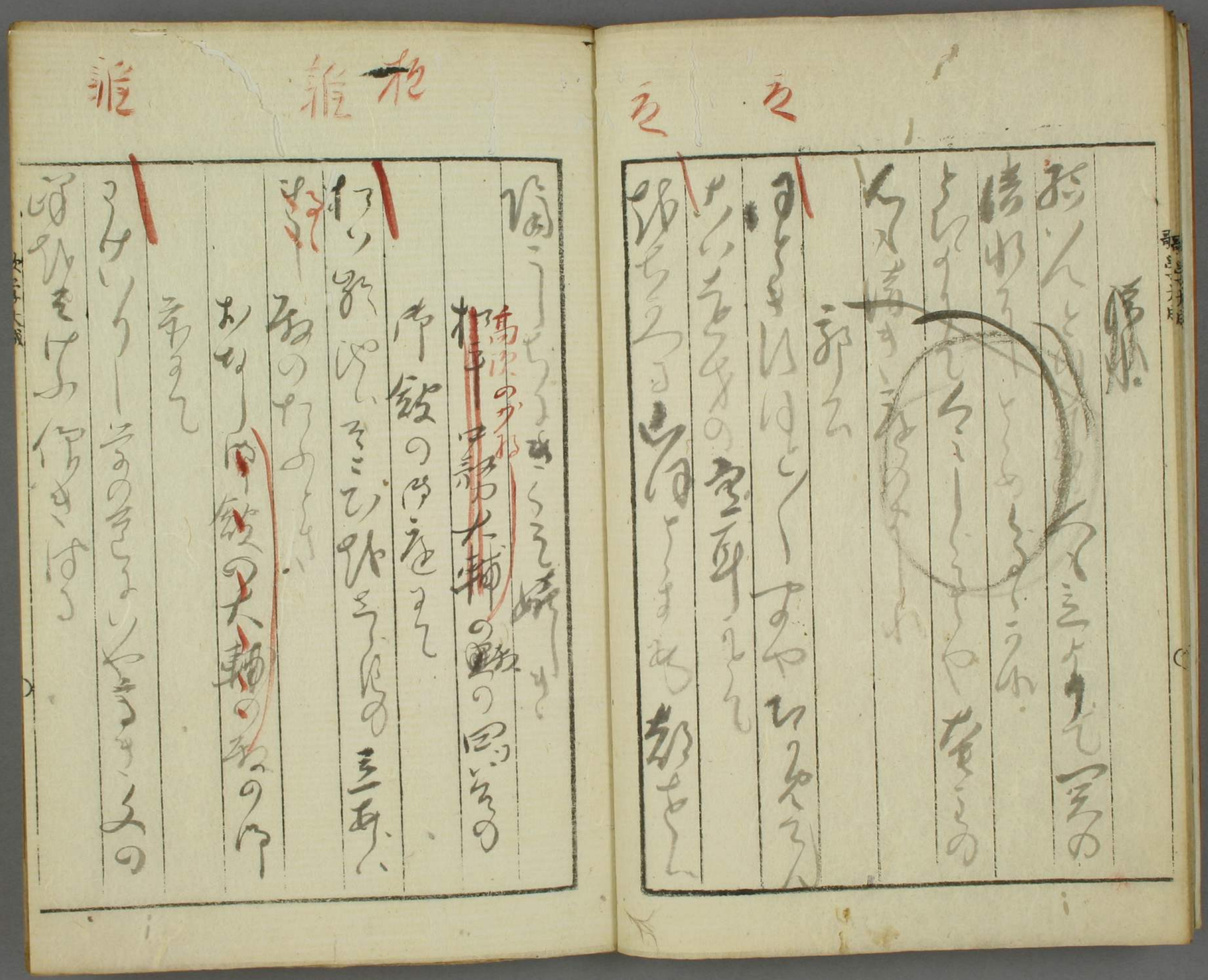
七夕

七夕

水至清則無魚人至察則無徒

富士の詩

如城防長



行恋

疑恋

逢恋

善勇人像
採斤輪
林立鳳丘長

謝靈運かゝりの疑難かれあり
しよかうた探み序
千年の星み善賢人善家の緒
跡
ての下手一の加し　ややと人ぞなる
ふもとの里　はまなか
四方の高説人名和不隆の人つは
其て花を十一首の分かやけまり
千年の善意人善家の跡をすてかへ

さし大原三位重成て　さき頂て
であるて　あるの十のうてれ　かくの字
あびのくしきゝさのを吾くや　よ
みかきるらん　くえて　はとけと家
のなきおひし　茶がみ伴れみる
思寄人終古　同意おもし　法の松に
いおもわくて　このてさくの子をし
くそへなけに善とも善人善終
かこみえへるも　千年引接寺善

[illegible]の[illegible]の[illegible]城名
[illegible]志三の[illegible]陸奥の記
[illegible]面面[illegible]屋主成賢の記と
[illegible]大輪の金の法
[illegible]赤色[illegible]花中
[illegible]蓋あり[illegible]蓋の[illegible]の六弁を
表し[illegible]の[illegible]
花の形を[illegible]
表し花[illegible]十[illegible]蓋[illegible]

つナ蓋を表し[illegible]と[illegible]蓋の[illegible]
[illegible]蓋[illegible]なる[illegible]
屋[illegible]
別[illegible]の如[illegible]一本[illegible]
今[illegible]蓋[illegible]
[illegible]一枝[illegible]
[illegible]五石[illegible]
行[illegible]
て[illegible]八の[illegible]左[illegible]の[illegible]
[illegible]説を[illegible]

ことしこそあきのけしき

雨やみてけしきかはりてあはれなる

三日月なるの宮はしらず

十五夜月

山のはにあらはれいでし新なる

色一きはのまさるあき月

山の月

秋のよもこよひにまさる今はに

見ぬ人の眺めの月とうる

月前秋夜

寄輪說

嶺の月あかりなく

秋

秋

秋

秋

秋

秋

奥の后行の一周忌の歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

状

状

状

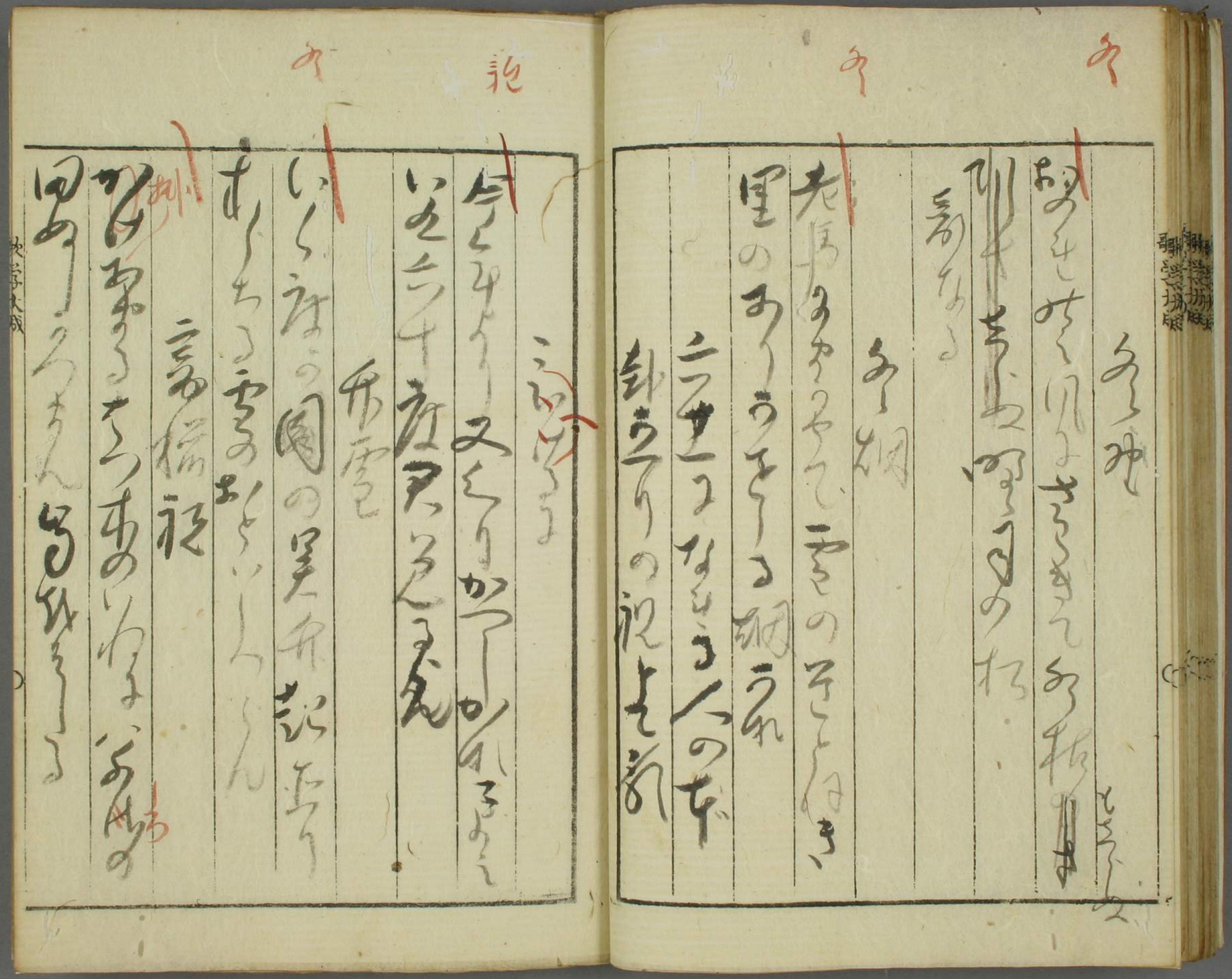
状

状

七月の

月

夕月



みわのやまいかにまちみむとしふとも
たつぬる人もあらしと思へは
経子
さそはれし鶏のこゑのたえし跡の
しらぬ山路をよるとはなしに
鏡媼
思ひいつるかひもなきみのうき身にて
かゝりつらぬをうきふしの人
義之

九重の花の都をすてゝこそ
ひとたにねそめてし
誘はれて
かくれての山ちのさくらちるをしも
きくのはなさくあたりをそのみる
碧山一丁
なからましかは見るへき
ゆくへしらぬくもゐのかせ
梅翁

春みち

春日

みち駒

春梅

いきるよりわかるわかんのしさらむ
ふる里の梅のなつかしけれ

前大納言

多白うけたけのねくてま白露
おとけきもるさるのこゑ

春池

残てなかりしわかれきは世の
色くるの雲まあをきも我見れ

春之表

春過るまの松とかかりかえし
つくやえ大海のそらの門松

忠家

夜のくま大海すしも霞のきさるの残
後行

家梅花

さこのこりをもかへとも梅をあらし
夜れみらそのぬれかけてん

秀 海

秀 よもすから浦風の打さそひて
かれたる沖のこ舟

秀 雲あまのすみるるを
まつのはもさびうす月のほとり
漁火のうけしくもしくる舟

拙 海
めぐみてみちのこのまにたつらなき
舟にきぬなきあかや

秀 あをうつるみなとに煙
北のかた橋

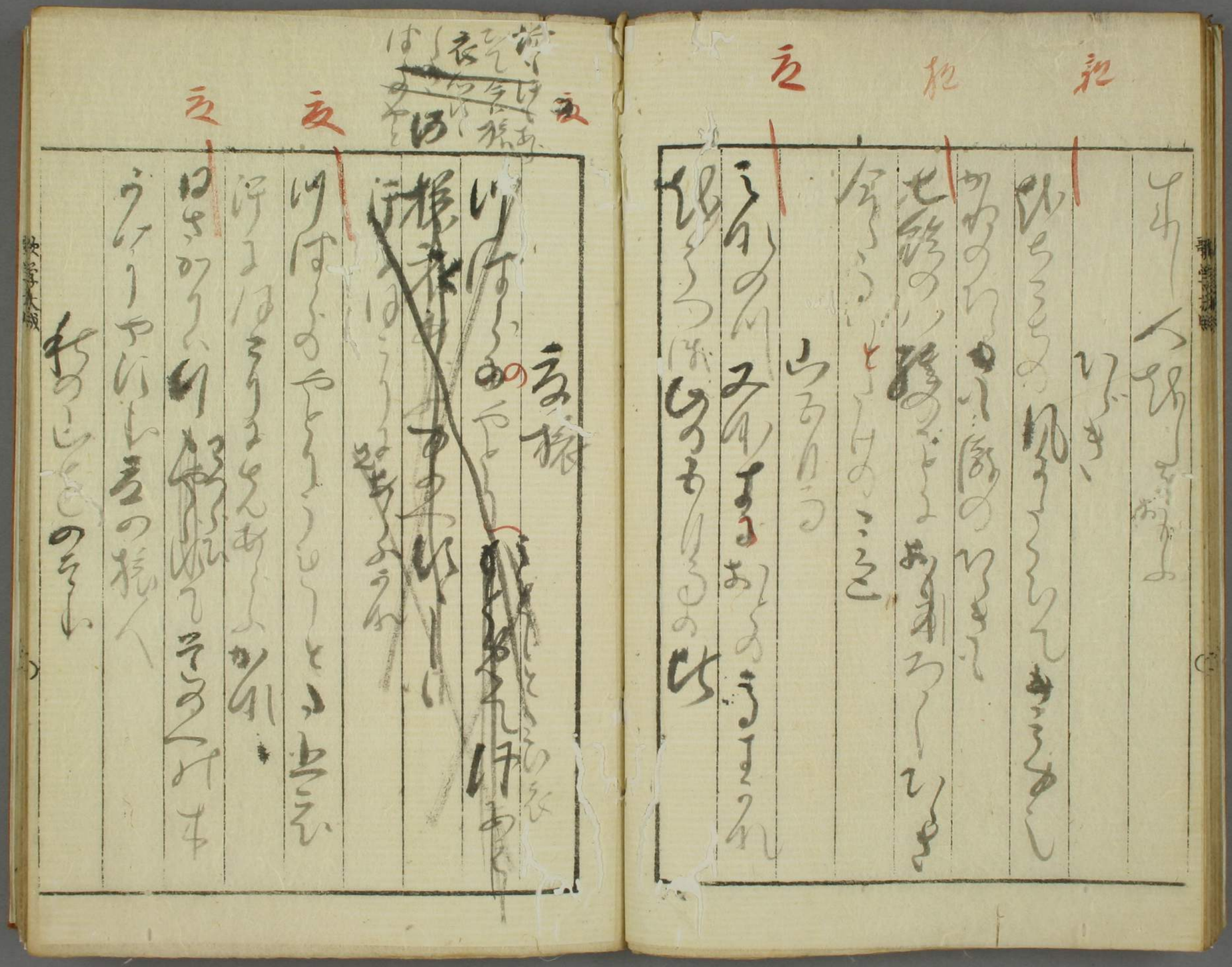
秀 あるりそりあるいかつし煙ふかぬ
あのほとせのさらぬやあかりとも

依花待友

秀 さかさらいはもかきくし出るや杉や
しわかしせる春の木

終日見花

七そこゑぐるまかりみゆきにはてぬ



秋

秋かぜ

書

芝誠心院蘭洲信都の詠作の

十四日

十五日

十六日

十七日

十八日

十九日

二十日

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

二十五日

二十六日

二十七日

二十八日

二十九日

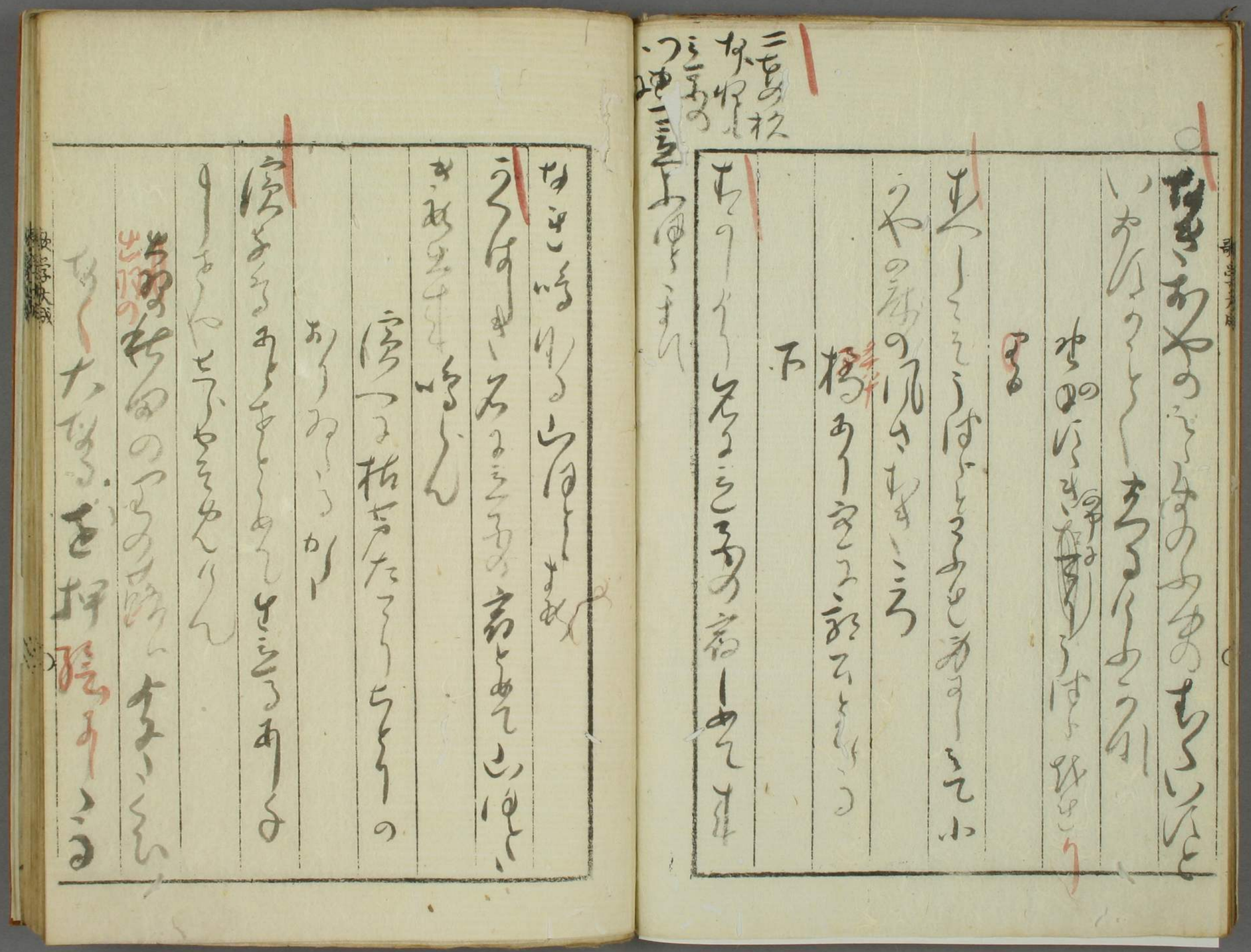
三十日

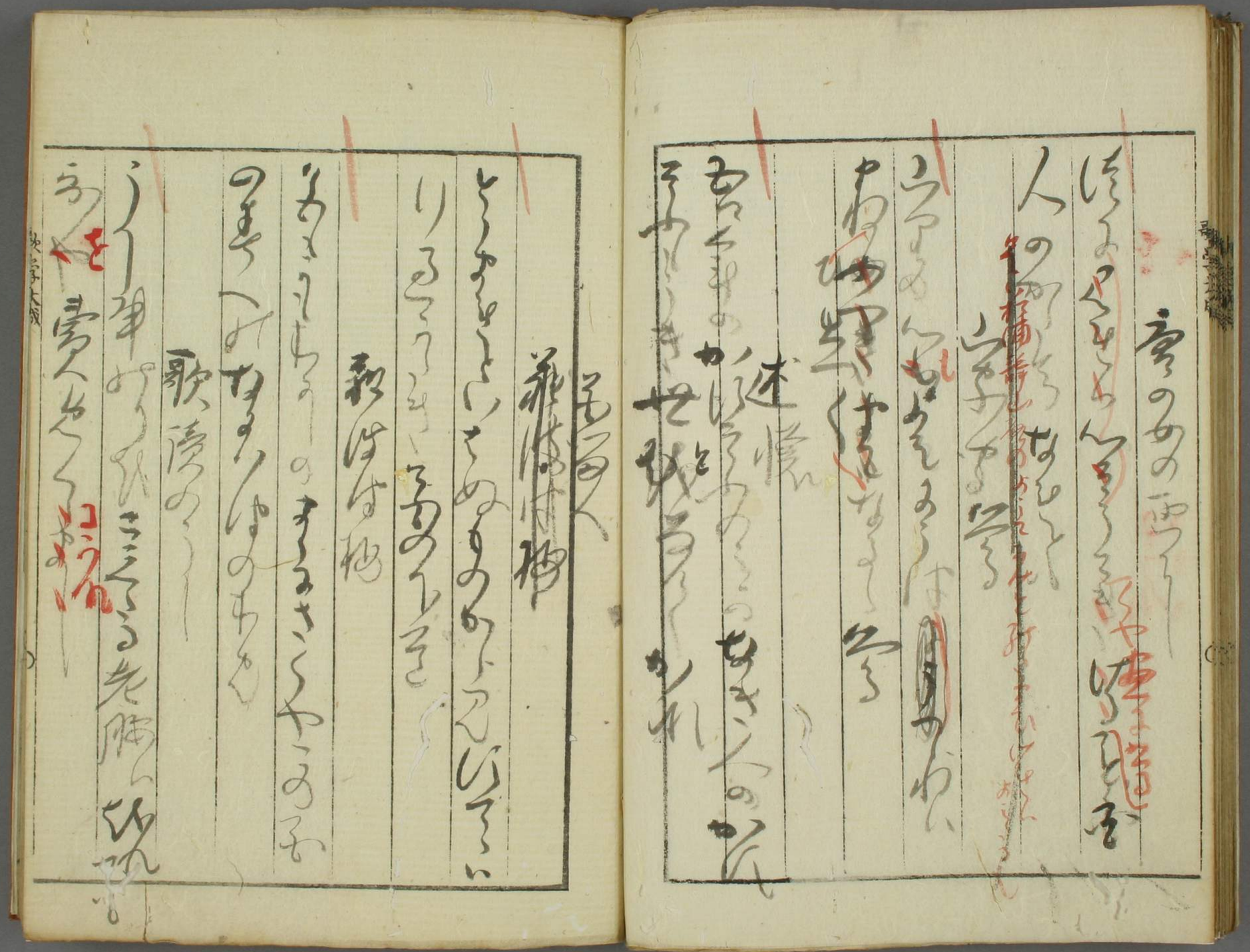
わかるゝて梅をたてまつるとて
世のなかに十年と思ひしかなん
暴風雨
雨ふれは心なくかゝる風雨又雨
のしまりて
迷ひ路あくるつゆのまゝ里なくなれは
そでふりたつかくりのこゑ
草枕

わすれとてなくは松の枝みとりの
色あさき梅のこすゑ
霞
ほのかに青柳の梢にかゝる
宇治の霞のかかれ
思去
見はるやと我いまとをはかりこえなきと
かきくものくる
花

冬枯れし菊にはうつろふ色もなし
庭の小菊
河邊鵆
河風のさむき堤にかよふなる千鳥の
ものゝふの
かくれなき紅葉の秋
[illegible]
かゝるにつけても世と共にうきこそあれ
よるのあらし
[illegible]
雪の夜あかつきかねつ夜ふかく
薄暮村烟
夕けふりたちのぼるなる夕暮に
の里のあるこのさかり
寄雪
冬されはつもるしらゆきの
めぐるかる雪のほどに
寄雪のは降る雪の一夜のうち
しられぬやとの又しきりなる

庵村





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陸奥

文政十三年十二月ばかり

阿波のかたへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

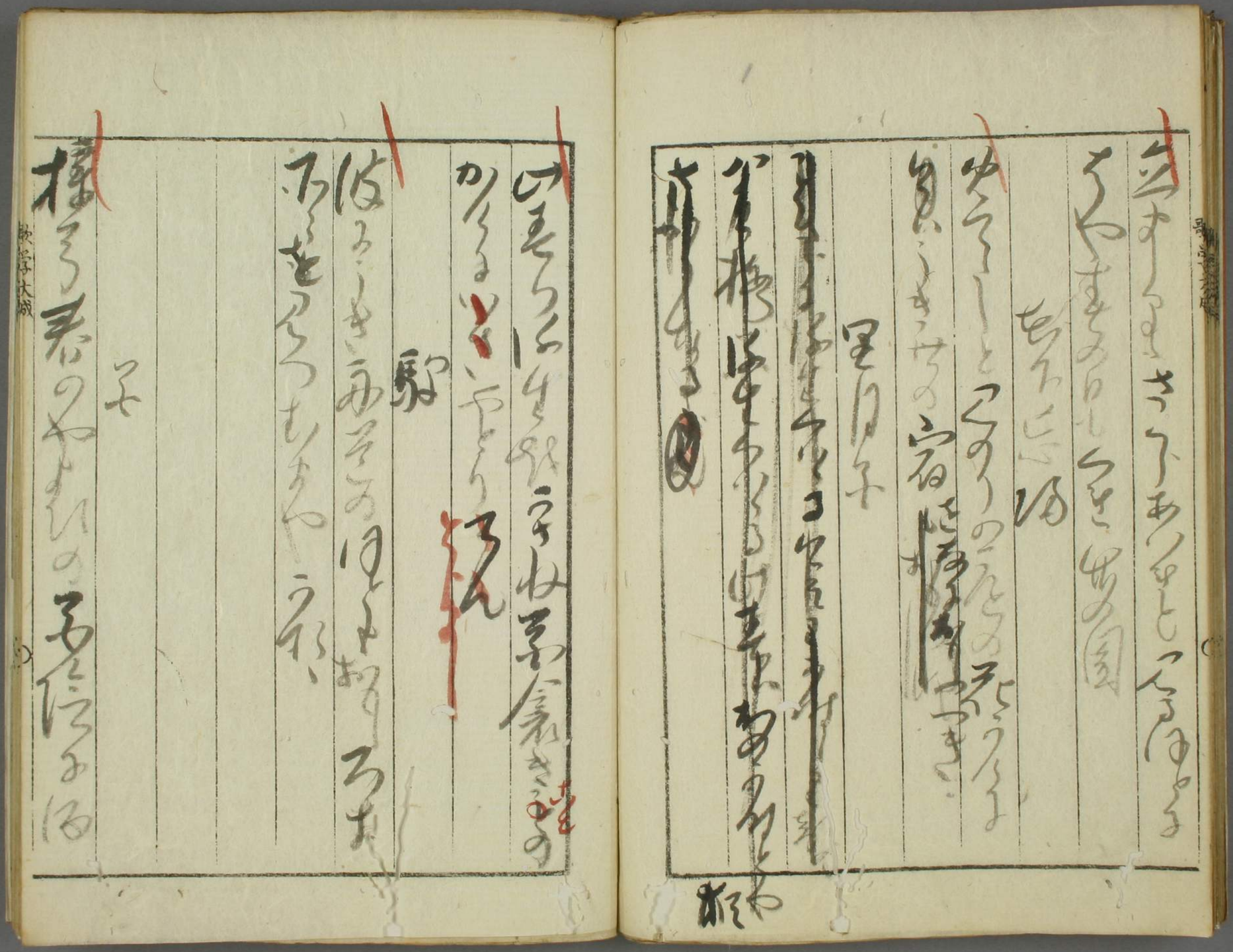
三好也る勝梅んはる乱生

文政十三年三月廿五日子江戸城主
の御松浦肥前守源朝臣の
屋敷の屋敷の庭に[redacted]嶋
山さよをうつしさまくの学木
ふ吉草木みそのふるなをせ
ふ作れ刻と高みらせる紙そとく

名所のとし金紙名されし絵
おさのし〳〵てるし山の月けそ
はうきかしありのくしそ井
あるさあ門姫園月うけの風
はのそし祀かむれさこぶお
たどありしおさきるあすまおしもに
ありやあさて沙のるみそる詠帰
亭とよる所ある合てのしまと
身さこぶかきし
思ふれまかち
こちのきし不完
春てそいきれそ吹くあきやしらよ

いそうにおはします　かのおんさへ　ひとつき
よくし　清水の子安塔
かのふもとにころべころとわさはけり
五条の御影堂　みをしのくれけり
とまたこそもさ　恵のをしよう
吉田の三輪こそ　又東の方は
小松谷の社あり　寛永の比は名跡
いまいはつきろの前よりあり
古社とも言ふ　古きは祇園の

石塔あり　また奥州の国より
先祖の石塔をもちたる上より
はのはしの庭の岩又金不動
通橋とて　唯楽寺の橋の傍
名をもつけそれ至つぼとゆき
大仏をはじめ　かりかたは
いささいみのはとこの光まなかせ
みのりて
　　　　　　五条橋



限りし寓居に帰るの形

其の時の哥を詠めけりし

歌

体して帰るさ中にたどるかな

文政十二年の十二月はかりその

三歳山の寛鑒大僧正職

を辞して山下谷と云所に

うつりおはします翌年の弥

生はかり　台命ありて再

補はれし一宇の堂を焼きて

方丈新に作り立てられ

ここはさこえしさへあらたに

祝謝りて

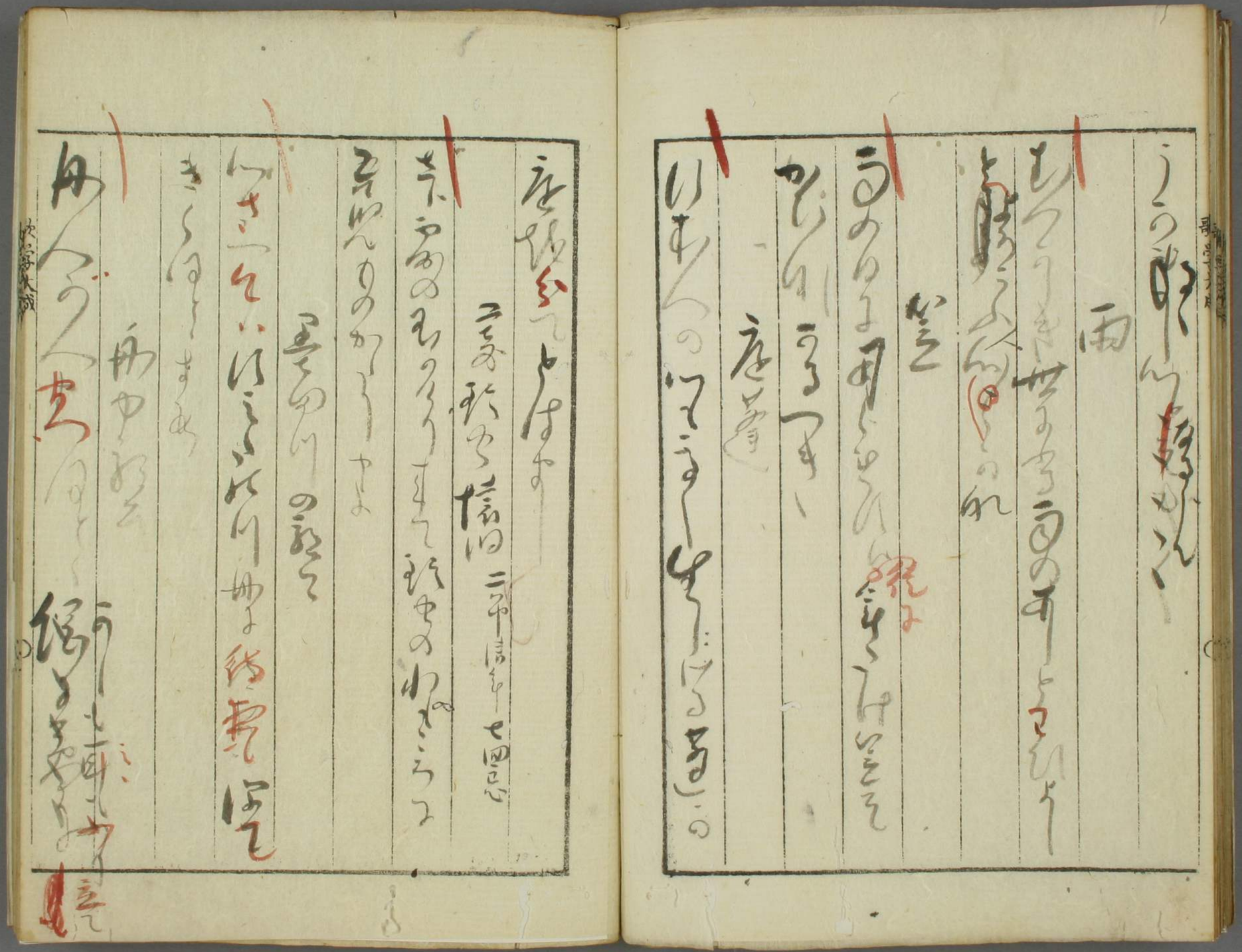
天つ日当しへ　方のはじめてこえて生

袖のうらに新さよしや

大院世の福のみる君なきもいぶ実

の扇し住けり

五く



月

清水清次郎の七回忌より

人なきさるの月のかげうしなはれる

嘘話

ひとりもさとしかげろふの時の月を

おもふ時はやしきるの日でし

哀悼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちのく

こゝ山もの月をいくさと捨てうちこゝの
あのかりをいくさん

打

こゝを捨てこゝをいきてあきしんすれば
打の[illegible]
以まゝ[illegible]の　やあくこゝるうれしつん
あをゝ山てうち

[illegible]三年の七月廿五日より

[illegible]田句帖のなかにまちがいなるもの
[illegible]
八二なりと[illegible]今年[illegible]三年の
五月廿五日より[illegible]の初夏の[illegible]
[illegible]
[illegible]ここのあるまゝ[illegible]
さて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後の大地震に江戸の大火をも
天正地妖あつづきしに改元
ありけるやさわとは事なり
[illegible]をきめ[illegible]のいちして
あたらしきおうなとなりてとよさとい
とーといふなれ
えな
初めれ歌いとちちちちのはすり
[illegible]

多田三郎
おくさのこちらあるーふる事なれ
歌よりうこ[illegible]拾ひけるれ
[illegible]中の陸時[illegible]
[illegible]今[illegible]ーのの[illegible]
かーと[illegible]ぼうこ[illegible]
[illegible]正義[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちりはてゝいとゝその山吹の下ゝ

をとゝさうつき

家集 春歌

春の山ぶきの花

あかなくに散てしぬべき山ぶきの

はなをいたづらにのみ

春下思往事

花をきて一のふるあめにくちるを

ちりぬる人のわすれがてにする